

令和 6 年 5 月 4 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02126

研究課題名（和文）ハンセン病問題の最終局面に現前する諸課題への社会的接近

研究課題名（英文）A sociological approach to the problems at the final phase of Hansen's disease issues

研究代表者

福岡 安則（Fukuoka, Yasunori）

埼玉大学・人文社会科学研究科・名誉教授

研究者番号：80149244

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：わたしは、ハンセン病元患者たち、そしてその家族の人たちからの聞き取り調査を精力的に実施してきた。その主たる研究成果として、黒坂愛衣・福岡安則『ハンセン病家族訴訟 裁きへの社会的関与』（世織書房、2023）、福岡安則『聞き取り もうひとつの隔離 ハンセン病療養所附属保育所に収容された子どもたちの人生』（解放出版社、2023年）を上梓した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わたしのハンセン病問題研究の社会的意義は、被差別当事者との信頼関係に基づき、「ハンセン病家族訴訟」での「意見書」の提出により、国のハンセン病政策の誤りを糺す前提となる違憲国賠訴訟において、原告勝訴獲得に一定の寄与をしたことであり、それによって、偏見差別の解消のための施策検討に弾みがついたことである。

学術的な意義としては、偏見が、個々人の内面の問題ではなく、また知識・認識の正誤の問題でもなく、《集合的意識としての偏見》として、個々人から外在するかたちで社会的に構築されたものであることを、聞き取り資料をデータとして論理的に解明したことである。

研究成果の概要（英文）：I have conducted fieldwork on the issues of Hansen's disease. I did many life-story interviews from the persons affected with Hansen's disease and their family members. As research results, I have published two books: Ai Kurosaka & Yasunori Fukuoka, The Family Lawsuit on the Problem of Hansen's Disease: A Sociological Commitment to the Judgement (Seori-Shobo, 2023) and Yasunori Fukuoka, Interviews on the Problem of Another Type of Isolation: Life Stories of the Children Who Were Accommodated in the Orphanages Attached to Hansen's Disease Sanatoriums (Buraku Liberation Publishing House Co., Ltd, 2023).

研究分野：社会学

キーワード：ハンセン病 隔離政策 らい予防法 偏見差別 家族訴訟 聞き取り ライフストーリー

1. 研究開始当初の背景

わたしは、厚労省の第三者機関として設置された「ハンセン病問題に関する検証会議」の「検討会委員」を2003年春に委嘱されたことをきっかけに、ハンセン病問題にかかわるようになった。検証会議が2005年3月に「最終報告書」を公表して解散した後も、継続的にハンセン病問題の調査研究に従事してきた。2007年以降の17年間でわたしが研究代表者として科研費の助成を受けたのは、5度。2007～09年度、基盤研究(C)「市民社会のなかのハンセン病問題 家族・社会復帰者・再入所者のライフストーリー」、2010～12年度、基盤研究(B)「ハンセン病問題の《集合的な語り》の記録化の追求」、2013～17年度、基盤研究(B)「《ハンセン病問題の社会学》の集大成にむけて 語りの記録化と多事例対比解読法」、2014～15年度、挑戦的萌芽研究「ハンセン病問題の現状をめぐる日本・韓国・台湾の国際比較研究」、2019～23年度、基盤研究(C)「ハンセン病問題の最終局面に現前する諸課題への社会学的接近」。

本研究課題が始まる2019年4月の時点では、まもなく、熊本地方裁判所での「ハンセン病家族訴訟」の判決が出されることになっていた。世の中から基本的に忘れ去られていた「ハンセン病問題」が広く社会的な注目を浴びたのは、全国13の国立ハンセン病療養所の入所者を中心とするハンセン病元患者たちによる「らい予防法違憲国賠訴訟」の判決が、2001年5月11日、熊本地方裁判所で「原告勝訴」となり、時の小泉純一郎首相が控訴断念をして、確定判決となったことによってであったが、その後も長らく、「ハンセン病の家族たちも患者を療養所に追いやった加害者」であるという見方が、ハンセン病弁護団においてさえ支配的であった。それを、家族たちも、「らい予防法」による国の「強制隔離政策」と官民一体となった「無癩県運動」の被害者にほかならないとの基本的な認識の転換をもたらしたのは、わたしと共同研究者の黒坂愛衣（現、東北学院大学教授）による地道な、家族当事者たちからの聞き取り調査の実施、その成果の公表であったと自負している。

こうして、ハンセン病問題の課題として、ハンセン病に罹患した人たちの強制的な「隔離収容」の問題のみならず、社会のなかになお根深くあるハンセン病をめぐる「偏見差別」の問題が大きく焦点化されることになった。それが、わたしの言うところの「ハンセン病問題の最終局面」である。その背景には、ハンセン病元患者たちはみなさん高齢化され、療養所入所者の平均年齢は88歳を超え、退所者たちの高齢化も著しいという現実がある。また、ハンセン病家族といったとき、ハンセン病罹患者の子どもたちの世代は、やはり、一定の高齢化が進んでいる。「ハンセン病問題の解決」を言うとき、残された時間は少ないという、厳然たる現実がある。

それと、わたしの個人的事情にかかわるが、2019年4月の時点では、わたしは埼玉大学を定年で退職して6年が経過。本研究課題の終了時には、まる11年が経過。その時点での76歳という年齢を考えると、現役のフィールドワーカーとしての幕引きの時点でもある。それもまた、わたしにとっての「最終局面」であった。

2. 研究の目的

わたしは、「研究計画調書」で、最終局面を迎えた現時点におけるハンセン病問題をめぐっての解明すべき課題として3点を明記した。「強制隔離政策」による被害は、単に療養所への《隔離収容》だけではなく、《社会の中の居場所を奪う》ことでも生じていた。その全貌に迫る必要がある。療養所に収容された患者の子どものうち「療養所附属保育所」に措置された人たちの体験が未知の状態である。当事者からの聞き取りが必要である。ハンセン病をめぐる偏見差別の前近代的態様と、近代における「強制隔離政策」と「無癩県運動」が作出してしまった偏見差別の質的違いは何であったのか。この問題の解明ぬきには、ハンセン病問題をめぐっての「国策の責任」も解明されたことにはならず、再発防止への示唆も得られない。これら3点をめぐって、わたしは少なくとも、議論の前提となるデータを当事者からの聞き取りによって蓄積し、記録として残したい。今を逃せば、もはや機会はない。」

3. 研究の方法

これまた、「研究計画調書」で述べたとおり、社会的差別問題を調査研究するわたしの方法は一貫している。「わたしの調査研究のスタイルは、あらかじめガチツとした理論枠組を用意して、それに適合するデータ収集のためにフィールドに入るというやり方ではない。そうではなく、ハンセン病問題という、当事者にとってみれば、さまざまある疫病のなかでたまたまハンセン病に罹患しただけで、また、そのような罹患者を家族成員の一人に持ったというだけで、社会的に偏見差別の対象とされ続けてきたという理不尽な社会問題に、限りない知的関心を抱きつつも、研究者の側で「探究すべき問題」を決めてしまうのではなく、フィールドワークを続けるなかで、向こう側から浮かび上がってくる問題事象の究明をめざすというやり方である。」

今回の研究課題の実施においても、この基本スタイルでもって参与観察ならびに聞き取り調査に臨んだが、当方の想定どおりに事が進んだのは、初年度の2019年度に限られた。世界的なパンデミックのコロナ禍のため、当事者にお会いしての聞き取り調査が実施不能になってしまったのである。やむをえず、2年目からは、これまでの調査で蓄積したデータの整理・分析に専

念して、調査結果をとりまとめ、公表することに全力を傾注することとなった。

4. 研究成果

「研究の目的」で述べた の「療養所附属保育所」に收容された《子どもたち》の体験と思いの究明については、福岡安則『聞き取り もうひとつの隔離 ハンセン病療養所附属保育所に收容された子どもたちの人生』（解放出版社、2023年）の出版によって、現時点で可能なかぎりの研究成果をあげたものと自負している。当事者との出会いの機会をつくっていただいたハンセン病弁護団には、心から感謝している。お会いしてお話を聞いた当事者のなかには、「先生とお会いするのは今日限りです。自宅に何かを送られてこられても困りますので、匿名化によるプライバシー保護を徹底してもらえれば、わたしの話のまとめ方はいっさいお任せします」ということで、お会いするのが一度限りとなった方々が何人もいる。家族にも秘密にしてきたことをお話しいただいた当事者の方には、心から感謝している。

「研究の目的」で述べた と の問題は連動している問題であった。《社会の中の居場所を奪う》ことの解明は、同時に、ハンセン病をめぐる偏見差別がいかなるものとして構築されてきたか、そして、いま現在、いかなるものとして存立しているか すなわち、ハンセン病をめぐる偏見差別の前近代的態様と、国の「強制隔離政策」と「無癩県運動」によってあらたに作出された偏見差別の態様との相違を明らかにすることであった。この課題に関しては、黒坂愛衣・福岡安則『ハンセン病家族訴訟 裁きへの社会学的関与』（世織書房、2023年）の出版によって、基本的に成し遂げたものと、これまた自負している。

『ハンセン病家族訴訟』でのわたしの論考は、2つの章からなる。ひとつは、熊本地裁の「ハンセン病家族訴訟」の期日のたびに毎回傍聴していたところ、あるとき、裁判長から「福岡先生が傍聴に来られているようだが、閉廷後の進行協議の場に来ていただいて、社会学者としての考えを聞きたい」と、突然の招待を受けたことに始まる。裁判長の突然の出題は、原告弁護団は「社会の加害集団化」という概念化で事象全体を説明しようとしているが、そのような考え方は社会的にみて如何か、というものであった。この問いに、わたしは《集合的意識としての偏見》という概念化でもって回答した。裁判長は納得できたようで、原告弁護団に対して、福岡の見解を踏まえた「主張の整理」を求め、弁護団も応諾した。この延長線上で、わたしは長文の「意見書」を書いて、裁判所に提出した。

2019年6月28日、判決。原告弁護団は、用意した「全面勝訴」「勝訴」「不当判決」の3つのうちから「勝訴」の旗だしをした。判決には、画期的な面と、あまりに中途半端な面が混在していたのだ。裁判長は、わたしの《集合的意識としての偏見》の用語をそのままは受け入れず、「社会構造（一種の社会システム）としての偏見」に言い換えたけれども、偏見がある種の社会的構築物であることは理解した。ゆえに、国が1996年に「らい予防法」を廃止したからといって、その時点で加害性が免責されるわけではなく、むしろその時点から、国が構築してしまった「社会構造としての偏見」を除去する義務が生じたと言うべきであると判示した。これが判決の画期的な面であった。

しかしながら、判決は、ハンセン病元患者たちによる、先の「らい予防法違憲国賠訴訟」の2001年の熊本地裁判決が原告勝訴となり、マスコミ等が連日大々的に報道することで、強制隔離政策のさなか、国が「らいは伝染力の強い怖い病気だ。隔離が必要だ」と喧伝したことによって作出された部分の偏見は、2001年の末までに解消し、その後も残るハンセン病差別は、古来の因習や、後遺症による「醜状」への自然な忌避感によるもので、もはや国の責任ではないと、きわめて杜撰な判断をも示した。

画期的な面と杜撰な面の両面を批判的に論じたのが、『ハンセン病家族訴訟』でのわたしの最終章である。

以上の、「意見書」と判決の批判的検討の2つの章は、同時に、「研究の目的」で述べた と の問題の解明に迫るものとなりえていて、著者としては考える。ぜひ、本書を一読していただきたいと願う。なお、本書に対しては、橋爪大三郎氏が『毎日新聞』書評欄（2023.6.24）で、有園真代さんが『社会学評論』第74巻第3号（2023）で、好意的に論評してくださった。

このほか、雑誌等に寄稿した論考で、わたしとしては「主要な研究成果」と位置づけられるものを、以下摘記しておきたい。

岩波書店の月刊誌『世界』への連載（黒坂愛衣との共著）の「ハンセン病回復者の語り・家族の語り」が、2018年9月号から始まり、2019年9月号の第11回が最終回となった。単行図書としての出版にはもたついているが、わたしたちとしては自信作であるので、近いうちに一書にまとめて上梓したいと考えている。

日本解放社会学会の学会誌『解放社会学研究』第33号（2020年）に寄稿した「国頭愛楽園が“患者立”、というのは“創られた伝説”ではないか」は、沖縄を舞台として、国の強制隔離政策、「無癩県運動」が吹き荒れる直前と、隔離の場として愛楽園が作られた以降とを比較することで、あれやこれやの思い込みの脱神話化を試みた論考である。

わたしは、一般社団法人千葉県人権センターの発行する『月刊スティグマ』に、第293号（2020年12月号）から、「差別とは何か、偏見とは何か」と題する連載を頻りに寄稿している。2020年の5月に、その編集責任者から電話で“書き手が少なく、毎月の刊行に苦慮している。原稿を書いてほしい”と頼まれたのだが、当の頼んできた人がその2カ月後には病死してしまって、“そろそろ連載はこのへんで終わりでもいいか”、と言える相手がいなくなり、現状では隔月ペースで

30 数頁分の原稿を寄せている。そのなかでもとくに、第 301 号（2021 年 8 月号）に載せた連載第 6 回の「《集合的意識としての偏見》とは何か」、第 308 号（2022 年 3 月号）の連載第 9 回の「ハンセン病家族訴訟と偏見差別論」、第 331 号（2024 年 2 月号）の連載第 22 回の「ハンセン病問題講演録二編」は、わたしなりの偏見差別論について、正面から、しかも平明な論調で叙述したものである。

2019 年 6 月の「ハンセン病家族訴訟」の原告「勝訴」を受けて、2021 年 7 月から 2022 年 3 月まで、国の（主管は厚労省）「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」が設置され、わたしもその委員の一人に選任された。しかし、「施策検討会」を仕切った法学関係者たちと社会学者であるわたしとは基本的な発想が、言ってみれば「水と油」で、いささかうんざりした。その思いを率直に表明したのが、学会誌『解放社会学研究』第 35 号（2022 年）に寄稿した「観察し調査し記録するという原点に立ち戻る」である。地道な調査研究の成果を踏まえて、それを国の施策レベルに反映させることの困難さを痛感した次第である。自分の研究を少しでも社会を変えることに結びつけたいと願っている、若い社会学研究者には一度目を通してもらえると有難い。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計79件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 331号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か（その22） ハンセン病問題講演録二編	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 815号
2. 論文標題 偏見差別とは何かを考え直す（その1）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 菊池恵楓園入所者自治会『菊池野』	6. 最初と最後の頁 2～6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第837号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第25回（最終回）親の毅然とした生き方が負のイメージを超克	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 104～112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 321号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か（その17） 千葉の部落に生きた先達の語り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 323号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その18) 千葉の部落に生きた先達の語り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 325号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その19) 地域実践に根をおろし続けて(裴重度さん聞き取り)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 327号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その20) 講演録「差別の社会学入門」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 329号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その21) 記者としてハンセン病史の只中にいる自分と出逢う(泉潤さん聞き取り)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 第20号
2. 論文標題 ある菊池恵楓園入所者のライフストーリー ハンセン病問題聞き取り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程（学際系）紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 205～225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 第20号
2. 論文標題 当たり前の社会生活を再発で断念 ハンセン病療養所「菊池恵楓園」聞き取り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程（学際系）紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 227～245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第820号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第15回 娘だけでなく孫娘までも	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 98～106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第821号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第16回 担任教師の声かけで偏見の魔法が解ける	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 104～112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第822号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第17回 船が見えなくなるまで手を振っていた	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 106～114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第823号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第18回 平成になっても「子どもは産むな」と	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 106～114頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第827号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第19回 消毒で“遺伝病”が“伝染病”になった	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 99～107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第828号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第20回 父不在を野球一筋で埋める	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 116～124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第831号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第21回 無人のジャルマ島で生まれて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 104～112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第832号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第22回 愛児を養護施設に預けて再入所	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 104～112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第834号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第23回 「潜伏期間が長い」の言葉に呪縛されて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 96～103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第835号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第24回 生まれ変わっても、父の子に生まれたい	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 96～104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 309号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その10) 誰が、どう、当事者の思いを伝えるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 310号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その11) 担任教師の一言で偏見の呪縛が解けた	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 312号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その12) ハンセン病「追悼式典」遺族代表挨拶	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 313号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その13) 『真木悠介の誕生』の著者との往復メール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 314号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その14) いま・ここ で差別と闘う	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 317号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その15) 強制隔離政策89年の負の遺産	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 319号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その16) 千葉の部落に生きた先達の語り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第35号
2. 論文標題 観察し調査し記録するという原点に立ち戻る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本解放社会学会誌『解放社会学研究』	6. 最初と最後の頁 33~55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 第19号
2. 論文標題 傑出した入所者自治会長、逝く 沖縄愛楽園、金城雅春さん聞き取り	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程（学際系）紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 103～122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第804号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第6回 母は愛生園へ、子らは青松園へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 111～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第805号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第7回 理解があるのと家族になるのは違う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 108～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第806号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第8回 生母と会ったのは中学生のとき	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 106～114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第807号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第9回 裁判で父娘関係認められず	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 106～114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第809号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第10回 保母と実母のはざままで葛藤	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 105～113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第810号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第11回 ダンスホールで見初められて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 110～118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第811号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第12回 「龍田寮」最後の保母たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 108～117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第817号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第13回 台風避難でも除け者にされて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 97～105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第819号
2. 論文標題 偏見差別をなくしてほしい ハンセン病問題にみる人生被害 連載第14回 金城雅春、愛楽園に死す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 105～113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 297号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か (その3) みなさんのメールに呼応しつつ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 299号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か (その4) 懐かしの原稿 / 幻の原稿	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 300号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その5) 懐かしの原稿 / 幻の原稿(続)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 301号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その6) 《集会的意識としての偏見》とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 304号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その7) 差別と表現をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 305号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か(その8) 講演録「部落差別解消法と人権教育」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2~33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 308号
2. 論文標題 「差別とは何か、偏見とは何か（その9） ハンセン病家族訴訟と偏見差別論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 No.39
2. 論文標題 ハンセン病の偏見は、ホットケーキ風？ ロールケーキ風？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ハンセン病問題の全面解決を目指して共に歩む会『会報』	6. 最初と最後の頁 34～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第2989号
2. 論文標題 本の紹介 「人種主義」をキーワードに部落史を叙述：黒川みどり著『被差別部落認識の歴史 異化と 同化の間』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『解放新聞』	6. 最初と最後の頁 5面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 第18号
2. 論文標題 罹患者の娘のみならず孫まで結婚差別 ハンセン病問題聞き取り	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程（学際系）紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 147～165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 第18号
2. 論文標題 菊池恵楓園附属保育所「龍田寮」最後の保母たち ハンセン病問題聞き取り	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程（学際系）紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 167～184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第797号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第1回 「本妙寺部落」狩込みに遭う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 112～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第798号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第2回 1歳のときに「湯之沢部落」解散	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 108～113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第799号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第3回 今も残る「光田氏反応」の注射痕	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 112～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第801号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第4回 浮浪児に非ざるも浮浪状態に近し	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 110～117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第803号
2. 論文標題 もう一つの隔離 ハンセン病療養所附属保育所を生きて 連載第5回 大浜女史に養子に誘われて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 111～119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第293号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か (その1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第295号
2. 論文標題 差別とは何か、偏見とは何か (その2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター『月刊スティグマ』	6. 最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 紙面講座冊子
2. 論文標題 社会構造としての偏見差別 ハンセン病家族訴訟に社会学者としてかかわって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉県人権センター 『ハンセン病元患者等に関する人権』	6. 最初と最後の頁 1~37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 東京版 (2020.6.4)
2. 論文標題 新型コロナ 差別から感染者守るべきだ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『朝日新聞』	6. 最初と最後の頁 17面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第2965号
2. 論文標題 コロナ禍に想う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『解放新聞』	6. 最初と最後の頁 8面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第2973号
2. 論文標題 本の紹介 理不尽な権力と闘う黄光男さんにパワーをもらう: 『閉じ込められた命 ハンセン病と朝鮮人差別』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『解放新聞』	6. 最初と最後の頁 5面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 No.37
2. 論文標題 山の奥の奥まで入所勸奨は追いかけてきた	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ハンセン病問題の全面解決を目指して共に歩む会 会報』	6. 最初と最後の頁 27～45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第101号
2. 論文標題 日本の聖書におけるハンセン病訳語問題 (使用言語は韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓国ハンセン総連合会『ハンセン』	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 33
2. 論文標題 国頭愛楽園が“患者立” というのは “創られた伝説” なのではないか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本解放社会学会誌『解放社会学研究』	6. 最初と最後の頁 120～143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 17
2. 論文標題 リプロダクティブ・ライツの剥奪 ハンセン病問題「本妙寺部落狩込み」「湯之沢部落解散」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 埼玉大学大学院人文社会科学部研究科博士後期課程 (学際系) 紀要『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 1～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 17
2. 論文標題 長い在日暮らしをハンセン病罹患者として生きて 金相権さん聞き取り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 21～48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 17
2. 論文標題 死後認知訴訟とハンセン病家族訴訟の原告となって 少女期を栗生楽泉園附属保育所で過ごした一女性の語り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本アジア研究』	6. 最初と最後の頁 49～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒坂愛衣・福岡安則	4. 巻 919
2. 論文標題 助け合って社会で生きる ハンセン病回復者の語り・家族の語り 連載第7回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』岩波書店	6. 最初と最後の頁 245～252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 920
2. 論文標題 出会いが導く人生 ハンセン病回復者の語り・家族の語り 連載第8回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 242～249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 921
2. 論文標題 ハンセン病と国籍の二重の差別 ハンセン病回復者の語り・家族の語り 連載第9回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 283～290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 922
2. 論文標題 予防法が母を殺した ハンセン病回復者の語り・家族の語り 連載第10回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 275～281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則・黒坂愛衣	4. 巻 924
2. 論文標題 思いよ届け！ ハンセン病回復者の語り・家族の語り 連載第11回（最終回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 267～276
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 単行書
2. 論文標題 胸中深く恨（ハン）を抱えて生きて 黄鶴性さん聞き取り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『閉じ込められた命 ハンセン病と朝鮮人差別』兵庫在日外国人入権協会	6. 最初と最後の頁 82～108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 単行書
2. 論文標題 社会と療養所の“二重生活”を余儀なくされて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ハンセン病回復者支援センター・ハンセン病関西西退所者原告団いちょうの会編『いのちの輝き ハンセン病療養所退所者の体験記』	6. 最初と最後の頁 254～275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 資料集
2. 論文標題 偏見の構造に楔を打ち込むために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ハンセン病問題講演会実行委員会『令和元年度ハンセン病問題講演会資料集 ハンセン病家族訴訟が私たちに問いかけていること』	6. 最初と最後の頁 34～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 2019.6.19
2. 論文標題 視標 ハンセン病家族訴訟／国が偏見をつくり出した	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『静岡新聞』（ほか地方各紙、共同通信の配信）	6. 最初と最後の頁 25面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 2019.6.29
2. 論文標題 当事者支える仕組みを	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『琉球新報』	6. 最初と最後の頁 22面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 2019.7.10
2. 論文標題 偏見除去へ教育再構築を	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『南日本新聞』	6. 最初と最後の頁 3面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 第2917号
2. 論文標題 社会啓発の再構築へ ハンセン病家族訴訟「控訴断念」を受けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『解放新聞』	6. 最初と最後の頁 2面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡安則	4. 巻 95
2. 論文標題 緊急報告：日本のハンセン病家族訴訟「勝訴」判決、そして「控訴断念」を勝ち取る（使用言語は韓国語）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 韓国ハンセン総連合会機関誌『ハンセン』	6. 最初と最後の頁 21～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福岡安則・岡田紅理子・仁井田典子・堀江有里・服部あさこ・波多野綾子
2. 発表標題 ハンセン病に係る「差別的態度」の表出を支えているものは何か
3. 学会等名 第39回日本解放社会学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福岡安則
2. 発表標題 ハンセン病問題をとおしての「偏見」概念再考
3. 学会等名 第38回日本解放社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福岡安則
2. 発表標題 沖縄愛楽園を社会とつなぐ 自治会長 金城雅春さん聞き取り
3. 学会等名 第37回日本解放社会学会大会「自由報告部会」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福岡安則
2. 発表標題 ハンセン病家族訴訟「判決」を評す
3. 学会等名 第35回日本解放社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福岡安則
2. 発表標題 リプロダクティブ・ライツの剥奪 ハンセン病問題「本妙寺部落狩込み」「湯之沢部落解散」再考
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 黒坂愛衣・福岡安則	4. 発行年 2023年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 ハンセン病家族訴訟 裁きへの社会的関与	

1. 著者名 福岡安則	4. 発行年 2023年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 336
3. 書名 聞き取り もうひとつの隔離 ハンセン病療養所附属保育所に収容された子どもたちの人生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------